

2026年度 博士前期課程入学者選抜(Ⅱ期)
学 力 検 査

専 門 科 目
(日本語・日本語教育コース)

【問 題】

以下の3問(～)から1問を選んで解答しなさい。 は解答用紙①を使用すること。
 及び は解答用紙②を使用し、選択した問題の番号を解答用紙②の 内に記すこと。

格助詞について、次の【問1】～【問3】に答えなさい。

【問1】 次の (a) ～ (d-2) の括弧内に適切な格助詞を入れて整った文にしなさい。

- (a) 雨 () 降っている。
- (b) パンダ () 笹 () 食べている。
- (c-1) 教室 () 机 () 並んでいる。
- (c-2) 教室 () 机 () 運び出す。
- (d-1) 子供たち () 公園 () 遊んでいる。
- (d-2) 子供たち () 公園 () 入ってきた。

【問2】 次の (e-1) ～ (g-2) の2つずつの文 (例: e-1とe-2)は、それぞれ、使われている名詞と動詞は同じだが、適切な格助詞を入れることで意味の異なる2つの文ができる。どのような格助詞か答えなさい。

- (e-1) 太郎 () 花子 () 映画に 誘った。
- (e-2) 太郎 () 花子 () 映画に 誘った。
- (f-1) 太郎 () 花子 () けんかした。
- (f-2) 太郎 () 花子 () けんかした。
- (g-1) 子供たちが 壁 () 赤いペンキ () 塗った。
- (g-2) 子供たちが 壁 () 赤いペンキ () 塗った。

【問3】 上の【問1】【問2】において適切な格助詞を入れることができたのはなぜだろう。格助詞は文中でどのような機能をはたす助詞であるかに触れながら、日本語学(日本語教育学も含む)の観点から200字～300字程度で説明しなさい。

2

心理学的測定法に基づく学習成果の評価においては、信頼性や妥当性が求められている。これは、日本語教育の現場では主にテストという形式で実施されている。ただし、近年、これに代わる評価として代替アセスメントと呼ばれる評価の広がりがみられるようになった。代替アセスメントには、ポートフォリオ、ダイナミックアセスメント、自己評価や相互評価などがある。このような言語教育における代替アセスメントの具体的な例を一つ取り上げ、その評価の基本的な概念とその意義について説明し、その利点と課題について 1200 字程度で論じなさい。

3

文学作品は、それを生み出した社会の価値観を反映することもあるれば、それに亀裂を入れ、同時代社会の規範的な思考や感性のあり方に揺さぶりをかけることもある。近現代日本の文学作品を一つ取り上げ、それが同時代の文化的・社会的状況とどのようにかかわっているか、具体的に 1200 字程度で論じなさい。

2026年度 博士前期課程入学者選抜（Ⅱ期） 学力検査
専門科目（日本語・日本語教育コース）

《解答・解答例》

問題

1

【問1】

正答例

- (a) 雨 が 降っている。
- (b) パンダ が 笹 を 食べている。
- (c-1) 教室 に 机 が 並んでいる。
- (c-2) 教室 から 机 を 運び出す。
- (d-1) 子供たち が 公園 で 遊んでいる。
- (d-2) 子供たち が 公園 に 入ってきた。

【問2】

正答例 注：（ ）内は解説

- (e)
 - (e-1) 太郎 が 花子 を 映画に 誘った。 / 太郎 と 花子 を 映画に 誘った。
(太郎が誘う側) (太郎でも花子でもない第三者が誘う側)
 - (e-2) 太郎 を 花子 が 映画に 誘った。
(花子が誘う側)

- (f)
 - (f-1) 太郎 が 花子 と けんかした。
(太郎と花子がけんかした：太郎を中心に述べる)
 - (f-2) 太郎 と 花子 が けんかした。
(太郎と花子がけんかした：太郎と花子の関係に起きた出来事を述べる)
意味はほぼ同じだが、主題化・焦点化される対象が異なる

- (g)
 - (g-1) 子供たちが 壁 に 赤いペンキ を 塗った。
(壁にペンキを塗る：「ペンキ」が付着する対象として壁を捉える)
 - (g-2) 子供たちが 壁 を 赤いペンキ で 塗った。
(壁をペンキで塗る：「壁」の状態変化を捉える)

【問3】

論述問題のため解答のポイントを示す。

解答のポイント

1. 格助詞は名詞と動詞・形容詞等との関係を示し、動作主・対象・場所・方向・手段などの意味関係を表す助詞であることを説明していること。
2. 同じ名詞や動詞を用いていても、格助詞が異なることで文の意味や解釈が変化することに言及していること。
3. 格助詞は日本語の文構造や意味理解に重要な役割を果たしており、日本語学習者にとっても習得が重要な文法項目であることを説明していること。

問題 2

論述問題のため解答のポイントを示す。

解答のポイント

1. ポートフォリオ、ダイナミックアセスメント、自己評価・相互評価などから一つを取り上げ、その基本概念を説明していること。
2. 学習過程や成長を捉えられること、学習者の主体性を促せることなど、代替アセスメントの意義や利点を具体的に述べていること。
3. 信頼性・妥当性の確保、評価基準の明確化、教師や学習者の負担など、実施上の課題にも言及していること。

問題 3

論述問題のため解答のポイントを示す。

解答のポイント

1. 近現代日本文学の具体的な作品を一つ取り上げ、作品の内容や特徴を適切に説明していること。
2. 作品が成立した時代の社会的・文化的背景を踏まえ、作品との関係を具体的に論じていること。
3. 作品が社会の価値観を反映する側面、または既存の規範や価値観に揺さぶりをかける側面について論理的に説明していること。

《出題の意図》

問題 1

名詞と動詞の意味から文法関係を推測し、それに応じて適切な格助詞を判断できるかを問う。

【問1】では、名詞と動詞の意味から文法関係が一義的に決まり、適切な格助詞を一通りに判断できるかを問う。【問2】では、同じ名詞と動詞の組み合わせでも、複数の文法関係

を考えることができ、それぞれに応じて異なる格助詞が入ることを理解しているかを問う。

【問3】では、格助詞に関する基礎的知識を確認するとともに、格助詞が名詞と動詞・形容詞等との関係をどのように表しているか、格助詞の選択によって文の意味構造が変化することを理解しているかについて、日本語学・日本語教育学の観点から説明できるかを測る。

専門的な術語を用いていなくても、上の性質について、説明できていれば評価する。

問題 2

日本語教育における評価の基礎概念を理解しているかを確認するとともに、代替アセスメントの意義・利点・課題を具体例に基づいて論じる力を測る。

問題 3

近現代日本文学の作品を、同時代の文化的・社会的状況と関連づけて分析できるかを確認し、文学理解と社会文化的視点を統合して論じる力を測る。